基準 1. 理念・目的

1. 現状説明

(1) 短期大学・学科・専攻科の理念・目的を適切に設定しているか。

1) 短期大学部全体

本学は、1950年、日本における短期大学制度の創設と同時に、龍谷大学短期大学部仏教科として誕生した。1962年に社会福祉科を開設し、保育士養成を中心に取り組み、以来、有為の人材を輩出してきた。1985年には専攻科仏教専攻を開設したが、時代の要請により仏教科ならびに専攻科仏教専攻は、併設する龍谷大学文学部に移管され、専攻科は1992年に開設された福祉専攻のみとなったが、2010年にその社会的使命・役割を一定程度果たしたとして閉鎖した。本学の個性化への対応として、2011年4月には社会福祉科を社会福祉学科に名称変更するとともに、新たにこども教育学科を設置した。

併設する龍谷大学は、1639年に西本願寺に設けられた教育機関「学寮」を起源とし、これまで370余年の間、教育・研究の灯火を絶やすことなく、有為な人材の育成に努めてきた。この長い歴史の中で僧侶養成機関としての使命を果たすとともに、宗学のみならず広範の学識が必要であるとの認識に立ち、明治初期には英語学・物理学・倫理学・経済学などの学問を取り入れた教育を始めた。1922年には旧制大学令により龍谷大学として認可され、文学部、大学予科、専門部を設置した。その後も1960年に深草学舎を開設し、社会科学系の学部を設置して総合大学としての歩みを始め、1989年には瀬田学舎を開設するとともに仏教系大学としては初となる理工学部を設置し、現在では8学部、9研究科、1専門職大学院、4付置研究所を擁する総合大学へと発展している。本学と併設する大学の学生総数は、約2万人（本学483人、大学：18,859人）である。

以上のとおり、本学は、大学を併設するメリットを最大限に生かしながら、長い歴史と共に時代を歩んできた。

このような歴史的経緯の中で、大学運営および教学展開の拠り所となっているのが建学の精神である「浄土真宗の精神」であり、そのことを龍谷大学短期大学部学則第3条に定めている（資料1-1）。

本学は、教育基本法並びに学校教育法による短期大学として、浄土真宗の精神に基づき実際に即した専門の教育を施し、併せて有為の人材を養成することを目的とする。
--

(出典：龍谷大学短期大学部学則 第3条)

<建学の精神>

本学の建学の精神である「浄土真宗の精神」は、普遍的かつ不変のものである。このことを大学構成員に周知し、社会に示すべく、1969年に星野元豊第9代学長が、親鸞聖人の

生き方を踏まえて、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」と要約した。また、1996年には、建学の精神を共に学び、共に実践するための平易な表現として「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の5項目にまとめた。

上記の「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」や5項目は、建学の精神がより深く理解されることを目的とした表現であり、「浄土真宗の精神」に置き換えることを意図としたものではない。しかしながら、近年、これらの表現が建学の精神そのものと理解され、建学の精神が「浄土真宗の精神」であるという認識が低下していると危惧されていた。

この点について、2012年度に大学執行部である部局長会が、建学の精神そのものである「浄土真宗の精神」のもとに、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」を本学の育成すべき人間像として、また、それを実現するための心として「平等」「自立」「内省」「感謝」「平和」の5項目を位置づけ、整理した。

現在では、これらの内容を包括して、以下のように「龍谷大学の『建学の精神』」として明文化している（資料1-2）。

龍谷大学の「建学の精神」

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。

浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。

迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。

阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観点・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。

本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめています。これらはみな、建学の精神あってこそその心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切にする「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

(出典：2012年度第21回部局長会<2012年9月27日開催>資料)

2) 社会福祉学科

社会福祉学科の教育理念・目的は、以下のとおり定めている。

福祉全般にわたる基礎的教養を修得するとともに、専門及び隣接領域の知識や実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

(出典：龍谷大学短期大学部学則 第4条第2項)

3) こども教育学科

こども教育学科の教育理念・目的は、以下のとおり定めている。

保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身につけた人材を養成することを目的とする。

(出典：龍谷大学短期大学部学則 第4条第2項)

第1に、この教育理念・目的は、2009年度以降のこども教育学科設置検討委員会、短期大学部教授会において、従前の保育士課程に加え、幼稚園教諭二種免許状に対応する教職課程の新設をふまえて策定されたものである。

第2に、この教育理念・目的の適切性について、2010年5月末に行った文部科学省に対する本学科の設置認可申請において、設置認可時に留意事項が付加されなかったという結果からも、適切性が担保されていると考えられる。

(2) 短期大学・学科・専攻科等の理念・目的を短期大学構成員（教職員及び学生等）に周知し、社会に公表しているか。

1) 短期大学部全体

上記のような教育の理念・目的は、教職員・学生・受験生や保護者等の社会に対して、印刷物・ホームページにより公表し、学内の諸行事等の機会を活用して周知を図っている。

まず、教職員に対しては、毎年度発行される『教員用ハンドブック』に本学の理念・目的を掲載すること、年度当初の学科会議において理念・目的を確認すること等により、周知を図っている。また、非常勤講師については、年度当初に配付する『授業科目履修要項』、『出講手帳』に掲載し、原則的に隔年で実施している懇談会においてさらに周知している(資料1-3～1-5)。

学生に対しては、履修要項や大学ホームページ(資料1-6)等に掲載することや、履修説明会、授業等での説明を通して、理念・目的の周知を図っている。加えて、宗教部が年間を通じて開催している行事等の機会を通して、その周知を行っている。

また、入学志願者・保護者等をはじめとした社会に対して、印刷物やホームページを通して、理念・目的の周知を行っている。具体的には、受験生や保護者に対してはオープンキャンパス等を通して配付する大学案内誌(入試広報)、広報『龍谷』、『龍谷大学短期大学

部「りゅうたん」』等のリーフレット、パンフレット等が、また学生には『授業科目履修要項』、『学生手帳』、学修の指針等がある（資料 1-7～1-10）。

特に、教育連携校等の高校に対しては、2006 年度文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（以下、「現代 GP」という。）「イメージ創成を中心としたキャリア教育」で制作した理念・目的の紹介を含むメディア DVD を配付するとともに、オープンキャンパスでその視聴の機会を設けるなど、理念・目的を公表・周知している。また、この DVD を入学直後の学生にも視聴させ、理念・目的の周知を図っている（資料 1-11）。

（3）短期大学・学科・専攻科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。

1）短期大学部全体

2011 年度より、全学において自己点検・評価を毎年度実施しており、その中で理念・目的の適切性についての評価項目を設定しており、定期的に検証を行っている。

2）社会福祉学科

短大自己点検・評価委員会の体制を基本としながらも、自己点検・評価の評価項目についての評価案は各評価項目の主たる担当者に取りまとめ、委員会に報告している。本学科専任教員は、短大自己点検・評価委員会が提案する検証結果を確認し意見を述べるなど、全員が検証過程に参加している。

3）こども教育学科

短大自己点検・評価委員会の体制を基本としながらも、自己点検・評価の評価項目についての評価案は各評価項目の主たる担当者に取りまとめ、委員会に報告している。ただし、本学科は、2012 年度が学科の完成年度にあたるため、2013 年度以降の改革に向けて、こども教育学科会議での検証、提案、審議等を進めているところである。

2. 点検・評価

○基準の充足状況

時代の要請等を踏まえ改組を行いながら、短期大学・学科の理念・目的を適切に設定している。そして、この理念・目的は、印刷物、ホームページ、DVD の作成に加え、学内の諸行事等の機会を活用して、教職員・学生・受験生や保護者等の社会への公表・周知を適切に行っている。

また、2011 年度より毎年度実施している自己点検・評価の中で理念・目的の適切性についての評価項目が設定されており、適切かつ定期的に検証を行っている。

ただし、理念・目的の公表・周知方法の効果を検証する方法の改善を検討しながら、より効果的な公表・周知方法を模索していくことが望まれる。

(1) 効果が上がっている事項

1) 短期大学部全体

建学の精神の具現化のために重要なものとして、授業期間中の毎朝の勤行と、「お逮夜法要」がある。お逮夜法要とは、親鸞聖人の毎月のご命日の前夜（前日）の法要であり、毎月15日に深草学舎顕真館で勤行と法話が行われている。このように本学の理念や建学の精神は、印刷物等の配付にとどまらず、行事として顕在化させている。

なお、設置科目のなかで、共通科目として、現代の学生に人間の真実の生き方を深く考えさせる「仏教の思想」（通年4単位）を必修科目として開講している。

2) 社会福祉学科

昨今、社会福祉分野の人材確保が大きな社会的課題となっており、本学科の理念・目的は、そのニーズに応える適切な内容となっている。また、長年の社会福祉人材の養成教育の伝統や、その教育に必要となる教員・施設・設備等の教育環境、さらには龍谷大学とキャンパスを共有しているというメリットを活かし、福祉だけではなく幅広い教養教育を実施している点は、特徴的な点と言える。

前述の通り大学構成員（教職員および学生）への周知、社会への公表を行っており、特にDVDを活用することにより、効果的な周知・公表方法を模索する努力をしている。

理念・目的の適切性についての検証は、2011年度より毎年度、自己点検・評価の中で実施しており、定期的な検証システムを構築している。

3) こども教育学科

今日の社会において、保育・幼児教育に関する専門的・実践的能力を身につけた人材を確保することは喫緊の課題となっている。本学科の理念・目的は、そのニーズに応える適切な内容となっている。また、保育士や幼稚園教諭といった保育者養成に必要となる教員・施設・設備等の教育環境、さらには龍谷大学とキャンパスを共有しているというメリットを活かしている点で、本学科は特色があると言える。

理念や目的については、大学構成員（教職員および学生）に周知し、社会に対しても公表を行っている。特にDVDを活用することにより、効果的な周知・公表方法を模索している。なお、理念・目的の適切性についての検証は、2011年度より毎年度、自己点検・評価の中で実施しており、定期的な検証システムを構築している。

(2) 改善すべき事項

1) 短期大学部全体

教職員および学生への周知は、いずれも年度当初の会議および履修説明会等において、履修要項に基づく説明と確認を行っているが、それらだけで十分であるかは今後検討する必要がある。

また、周知方法としての印刷物やホームページについては、基本的な周知のツールとしては整備されているが、質的な検討、例えば利活用状況をふまえた検討等が必要である。

授業を通して理念・目的の学生に対する周知が行われており、適切な科目で、適切な時機に周知を行うことが望ましいが、主に授業担当者各々の判断で行われているのが現状であり、十分に組織的な計画・実施がなされているわけではない。

3. 将来に向けた発展方策

(1) 効果が上がっている事項

1) 短期大学部全体

建学の精神の具現化に向け、1年次生を対象として「仏教の思想」（通年4単位）を開講し、本学の建学の精神を解説した冊子『龍谷大学「建学の精神」』（資料 1-12）を受講生全員に配布し、サブテキストとして授業で使用し、統一した内容で本学の建学の精神の普及を展開している。また、2012年度より、2年次生を対象とした「共生（ともいき）論」（後期2単位）を新たに開講することとし、本学の理念・目的を学生に浸透させる体制の整備が進展しつつある。

こうした科目において、今後は、学生の実人生に関わるような、より理解しやすい教学内容にするための検討を十分行い、さらに充実させていかなければならない。

2) 社会福祉学科

理念・目的の適切性を検証する過程に、学生や卒業生の参加方策についても工夫することで、より効果を伸長させることができるように思われる。2013年度中に教授会、学科会議、コース会議等において検討を行い、2014年度からの実施をめざす。

3) こども教育学科

社会福祉学科と同様に、理念・目的の適切性を検証する過程に、学生や卒業生の参加方策についても工夫することで、より効果を伸長させることができるように思われる。ただし、2012年度は本学科設置2年目であることから、人数や規模の点で、社会福祉学科と同じような学生や卒業生の参加の度合いを期待することは難しいと考えられる。そのため、学生や卒業生が理念・目的の適切性の検証に参加する方策については、2013年度中に教授会や学科会議において十分な検討を行い、早ければ2014年度からの実施をめざす。

(2) 改善すべき事項

1) 短期大学部全体

理念・目的の周知方法の検討を進めていくうえで、どの程度教職員、学生に周知されているかを確認する仕組みを考案していく必要がある。

2) 社会福祉学科

授業を通じた理念・目的の学生に対する周知に関しては、どの科目、どのタイミングで周知を行うことが望ましいのかを2012年度中に学科会議、コース会議において検討を行い、2013年度からより組織的・計画的に実施する。

3) こども教育学科

一期生の卒業時点での資格・免許の取得状況、卒業後の進路状況等の情報を収集・総合し、これらの分析を2013年度中に学科会議で詳細に行うことによって、理念・目的を学生に周知するのに適した科目やタイミングについて検証する。

4. 根拠資料

- 1-1 平成24年度 学則・諸規程
- 1-2 「建学の精神」について（提案）
(2012年度第21回部局長会<2012年9月27日開催>資料)
- 1-3 龍谷大学短期大学部 2012年度教員用ハンドブック
- 1-4 2012年度 短期大学部授業科目履修要項
- 1-5 2012年度 龍谷大学出講手帳
- 1-6 ホームページ <http://www.human.ryukoku.ac.jp>
- 1-7 龍谷大学・龍谷大学短期大学部 2012 GUIDE BOOK (大学案内誌)
- 1-8 広報「龍谷」74号
- 1-9 龍谷大学短期大学部「りゅうたん」
- 1-10 学生手帳 2012
- 1-11 ダイジェスト版 導入教育用教材
- 1-12 龍谷大学「建学の精神」-共に学び共に実践するために-